

想定した経営類型

カーネーション+ガーベラ

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
カーネーション+ガーベラ	人 3.5	カーネーション周年栽培	a 40	1.カーネーション周年栽培は、低コスト耐候性ハウス(屋根型)隔離ベンチ10aハウス。低コスト耐候性ハウス(アーチ型)ベッド栽培20a(20a)、連棟補強Ⅱ型ベッド栽培10a 2.ガーベラは、低コスト耐候性ハウス(屋根型)20a(10a,10a)、低コスト耐候性ハウス(アーチ型)20a土耕栽培 3.多層カーテンと循環扇による暖房経費削減、共同購入苗利用。 4.ガーベラは3年据え置き栽培、暖房は暖房機とヒートポンプを使用 5.共選共販売により、京阪神市場へ出荷	
		ガーベラ周年栽培	40		
		計	80a		
		経営耕地面積 水田			
		畑	80 a		
経営目標		1 農業総収入	64,522 千円	4 1日当たり農業所得	11,325 円
		2 農業経営費	55,260 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,869 時間
		3 農業所得	9,262 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所割 有合	取得価格	耐用 年数	年間 償却額
建物・施設	作業場・倉庫	1	鉄骨・100m ²	1	千円 9,451	24	千円 394
	低コスト耐候性ハウス(屋根型・ベンチ含)	3	低コスト耐候性ハウス・1000m ²	1	99,652	14	3,559
	低コスト耐候性ハウス(アーチ型・ベッド含)	2	低コスト耐候性ハウス・2000m ²	1	69,584	14	2,485
	連棟補強型(SRH)ハウス	1	連棟補強Ⅱ型・1000m ²	1	14,556	14	520
	オイルタンク	4	1900K	1	2,151	7	154
	防油堤	4		1	2,048	25	82
	計				197,442		7,193
農機具	軽トラック	1	660cc	1	1,324	4	166
	軽ワゴン	1	660cc	1	1,324	4	166
	耕耘機	1	7ps	1	298	7	21
	管理機	1	6.2ps	1	195	7	14
	土壤消毒機	1	歩行型(管理機付)	1	125	7	9
	動力噴霧機	1	3ps	1	184	7	13
	冷蔵庫	2	3坪	1	3,375	7	241
	温風暖房機	8	75,000kcal	1	8,664	7	619
	統合環境制御機器	3	1ハウスに1台	1	4,017	7	287
	炭酸ガス発生装置	2	10aハウス用	1	555	7	40
	局所施用機	2	10aハウス用	1	836	7	60
	炭酸ガス発生装置	1	20aハウス用	1	361	7	26
	局所施用機	1	20aハウス用	1	836	7	60
	ヒートポンプ(ガーベラ・カーネーション)	12	8ps	1	13,680	7	977
循環扇	48	10a 6台設置	1	1,654	7	118	
養液土耕システム	3	コンピュータ制御・電磁弁	1	3,289	7	235	
計				40,717		3,050	

3. 技術体系

1)カーネーション周年栽培

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系					技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間	使用資材	
定植準備	用土調整 土壌消毒 施肥整地	5月下 ～7月 上	耕耘機 管理機 土壌消毒機	2	13	26	・植物性有機物 (ケイントップ等) 400kg ・BMようりん60kg ・緩効性肥料	・クロルピクリンで土壌消毒 ・窒素20kg・リン酸20kg・加里 20kg
定植	支柱立て ネット張り	6月上 ～7月 上		2	33	66	・支柱816本 ・ネット10cm×7 目 ・苗15,000本 ・寒冷紗	・購入苗定植。 ・中3マスあけで2条植え
摘心		7月上 ～9月 上中		2	48	96		・1回目は定植後3週間頃。 ・2回目は側枝のもっとも早く伸 張したものを7～8節目で摘心 する。
ネット上げ		7月下 ～5月 上		2	9	18		・5段ネット
整枝		7月～ 3月		2	190	380		
摘芽・摘蕾		8月～ 5月		2	215	430		
温度管理 換気・炭酸 ガス施用		11月 ～4月	統合環境制御 装置 暖房機 ヒートポンプ 炭酸ガス発生 装置 局所施用機 循環扇	1	15	15	暖房について は、11月～4月 重油 2,806ℓ 電気使用量 11,735kw	二重カーテン 夜温12℃、日中20～24℃換 気 炭酸ガス局所施用
灌水・施肥	養液土耕	6月～ 翌年6 月	養液土耕シ ステム	1	11	11		窒素30kg・リン酸20kg・加里 40kg
収穫・出荷		10月 ～6月	軽ワゴン 軽トラック	2	536	1071		
病虫害防 除		6月～ 翌年6 月	動力噴霧機	2	18	36		・県病虫害防除基準による。
後かだづけ		5月下 ～6月 下	軽トラック	2	16	32		
計						2,181		

2) ガーベラ周年栽培
1年目

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業技術					技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間	使用資材	
1年目								
ビニール張り		4月下		2	14	28		
定植準備	耕耘整地 土壌消毒 元肥施用	4月上 ～下	耕耘機 管理機 土壌消毒機	2	35	70	・植物性有機物 (ケイントップ等) 500kg ・BMようりん60kg ・緩効性肥料	・十分深耕しておく。(最低40cm) ・pH6.0～6.5 ・基肥 窒素20kg 磷酸20kg 加里 20kgを緩効性肥料で施す。
定植		4月中 ～5月上		2	25	50	メリクロン苗 4,256株 寒冷紗	・畦幅70cm、畦高20～30cm、通路幅50cm、株間30×40cmの2条植 ・活着するまでは紗被覆を行う。
灌水・施肥	養液土耕	4月中 ～12月	養液土耕システム	1	8	8	点滴チューブ	・活着するまでは十分行う。 ・出蕾後は控えめにする。 ・株元に水がかからないようにする。 ・窒素・磷酸・加里 各15kg
温度管理		11月～ 12月	暖房機 ヒートポンプ 循環扇	1	12	12	電気 7,798kw 重油 504ℓ	・二重カーテン ・日中は20～22℃、夜温16℃以上 ・夏期は寒冷紗で遮光し、温度を下げる。 ・ヒートポンプは8馬力2台/10a設置
除草・葉かき		10月～ 12月		2	34	68		・1株20～25枚位となるように年間3～4回葉かきを行い、生長点に光があたるようにする。
収穫・出荷		9月～ 12月	軽トラック 冷蔵庫	2	148	295		・1年目の8月中旬までは、蕾が小さいうちに除去する。 ・花心の雌ずいが2～3列開いた時、朝夕に手で花柄をねじりながら引き抜く。 ・花柄基部を1～2cm切り戻し、十分水上げを行う。 ・ガーベラキャップをつける。
病害虫防除		5月～ 12月	動力噴霧機	2	24	48		・県病害虫防除基準による。
小計						579		

2～4年目

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系					技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間	使用資材	
2～3年目								
除草・葉かき		1月～12月		1	354	354		
温度管理		1月～3月 11月～12月	暖房機 ヒートポンプ 循環扇	1	18	18	電気 28,069kw 重油 2,105ℓ	・二重カーテン ・日中は20～22℃、夜温16℃
灌水・施肥	養液土耕	1月～12月	養液土耕システム	1	12	12		
病虫害防除		1月～12月	動力噴霧機	2	32.5	65		
収穫・出荷		1月～12月	軽トラック 冷蔵庫	2	629	1,258		
小計						1,707		
4年目								
除草・葉かき		1月～3月		1	45	45		
温度管理		1月～3月	暖房機 ヒートポンプ 循環扇	1	9	9	電気 18,441kw 重油 1,582ℓ	・二重カーテン ・日中は20～22℃、夜温16℃
灌水・施肥	養液土耕	1月～3月	養液土耕システム	1	3	3		
病虫害防除		1月～3月	動力噴霧機	1	12	12		
収穫・出荷		1月～3月	軽トラック 冷蔵庫	2	160	320		
後かだづけ		4月	軽トラック	2	16	32		
小計				2	211	421		

4. 品目の作付体系 (△定植、×摘心、□出荷)

ハウス仕様	品目(作型)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
低コスト耐 候性・鉄骨 ハウス	カーネーション周 年栽培						△-△×			×	□				
		□													
連棟補強 (2)型・SRH ハウス	ガーベラ周年栽培					○					□				
		□													
		□													
		□													

